



子ども自然教室
『幌別川と魚たち』(10月17日)



登別漁港まつり(9月14・15日)

去年は、福祉施設での演奏や学園祭、コンサートなどに力を入れてきましたが、この一年を振り返ると、何もかもが初めての経験でした。

特に、福祉施設でのお年寄りとの交流は、自分にとって勉強になり、演奏を聞いていただいたみなさまに、たくさんの拍手や励ましの言葉をかけていただきました。

学園祭では、今までにない若い方たちの中で演奏したことに新鮮さと、三味線を身近なものとして感じ共感してもらえたことに喜びを感じました。

三味線というと、ここ最近ようやくメジャー化してきましたが、

三味線という楽器での可能性を追求したい



実際身近に触れてもらう機会がありませんでした。

これからはこの三味線という楽器を通して、僕がテーマとする『自然』をもっと、もっとオリジナル曲として表現していきたい。



(登別本町/白田路明さん・三味線奏者)

たくさんのみなさまに想いが伝わる、心を打つ曲を作り、演奏していきたい。これからのたくさんの人との出会いやふれあいを大切にしながら、三味線という楽器での可能性をできる限り追求していこうと思います。

前略2003年の私

新学科に入学して



おおの きょうすけ
千歳町/大野匡介さん(18歳)

2002年4月、はり師・きゅう師の資格を目指して日本工学院のしん灸科に入学。担当教師の第一印象、一人は若くて優しいそう、もう一人は見た目が怖いヒゲをはやした先生。

はり・きゅうの分野は、自分が想像していた内容とは違い、最初は驚き戸惑う。授業も難しくついて行くのが大変だった。

そんな自分を支えてくれたのが白衣姿の自分自身だ。白衣を着て針を刺したり、おきゅうをすえたりしていると一瞬、先生になったような気分を味わうことができた。実習しているときのその白衣姿が励みになって、難しい授業を一年間頑張ってきた。振り返ってみれば、期待と不安を胸に迎えた入学時が懐かしく感じられる。何もわからないところから始めて、多少なりとも技術を身につけることができた。

今年も頭を悩ましながら授業を受けることになるが、白衣姿がより似合うよう頑張りたい。